掲載できなかった質問 ・常総市暮らしの便利帳について尋ねる

中村 博美 議員

捨てればゴミ、活かせば資源！！

ごみ減量の取り組みについて尋ねる

資源物回収の様子

議員 「どこまで膨らむごみ処理費用、一人一人がごみ減量を考え、ごみを減らす努力が必要」のスローガンを常に掲げ、私たち市民は1日のごみを少しでも減らそうという努力をしているが、市としてごみ処理費用を減らせるような考えは何かあるのか。

市民生活部長 広域では生ごみの堆肥化、市では資源回収を行っている。

議員 資源回収報奨金の支払金額とそれをふやす取り組みについて尋ねる。昔は値段がつかなかった古布にも現在はキロ10円がつき、報奨金と合わせればキロ15円になる。古布を赤い袋でごみとして出すのはもったいない。

市民生活部長 18年度は約1030万円で25年度が約816万円である。今後、さらなる自治区等への働きかけもしていきたい。

議員 報奨金制度の周知と金額をふやす努力をしてもらいたい。

市長 学校、町内会、子ども会にとっても自主財源がふえるというメリット面をアピールすることが広がる道だと思う。

議員 月曜日の回収には出さないくらいの気持ちで資源物を現金化しましょう。次に、広域でのごみ減量の取り組みを尋ねる。

市民生活部長 常総広域では、生ごみ堆肥化事業を立ち上げ、水海道地区215世帯が参加している。施設増設により、現在参加世帯を募集している。

生活環境課長 常総環境センターでは30世帯以上がまとまる地域を基本として募集準備を進めている。

一般質問 JOSOSHIGIKAIDAYORIJOSOSHIGIKAIDAYORIJOSOSHIGIKAIDAYORI 一般質問

岡野 一男 議員

不公平感のないまちづくりを!!

都市計画税の現況について

議員 都市計画税は目的税であり、税負担をされている地域の方々が相応の恩恵を受けるのは当然のことである。しかし、中妻・豊岡地区における整備というのは不十分であると考えているが執行部はどう考えているか。

企画部長 両地区の市街化区域について都市計画的な事業は現在行われていない。不公平感があるのは否めない。将来的に下水道が両地区にも拡大する可能性もあるので、その辺でご理解を得たい。

議員 年度内でこれだけの計画をしてこれだけの地域にやっていくんだということがなければ、目的税に沿えないと思っている。今後どのように進めていくのか。

市長 目的税は特定の方から取るわけだから、当然その方に給付も充当していくのが大原則である。その趣旨に合うように、不公平感がないようにやっていきたい。

議員 不公平感があるならば、都市計画税はなくして、すべての地域のまちづくりは一般会計の現在の歳入の中でやっていくべきではないか。

市長 議員が言ったような改正方向も検討の対象にはなっている。

議員 検討時期と実現に移る時期は。

市長 10月から具体的な検討作業を始めており、27年度中には具体的な結論を出したい。

議員 納税者は本当に働いた中で納税している。課税するほうも取るという意識ではなく、皆さまの大事なお金を預かるという意識で執行していただきたい。

掲載できなかった質問 ・図書館を軸とするまちづくりについて